

水道事業ガイドライン業務指標値(PI)

(目標1)安全で良質な水

＜表の見方＞

○望ましい方向

「↑」…高いほうが良い、「↓」…低い方が良い、「—」…指標単独の数値で判断できない

(分類)運営管理

番号	業務指標名(単位)	単位	定義(積算方法)	望ましい方向	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	解説
A101	平均残留塩素濃度	mg/L	残留塩素濃度合計／残留塩素測定回数	-	0.27	0.27	0.27	0.28	0.29	じや口での残留塩素濃度の平均値を示しています。 塩素臭を減らすためには、遊離残留塩素濃度0.1mg/L以上を確保した上で、なるべく値が低いほどよいです。
A102	最大カビ臭物質濃度水質基準比率	%	(最大カビ臭物質濃度／水質基準値) × 100	↓	40.0 カビ臭物質名 2-メチルイソボルネオール	30.0 カビ臭物質名 2-メチルイソボルネオール	30.0 カビ臭物質名 2-メチルイソボルネオール	30.0 カビ臭物質名 2-メチルイソボルネオール	40.0 カビ臭物質名 2-メチルイソボルネオール	じや口でのカビ臭物質濃度の最大値の水質基準値に対する割合を示しています。 この値は低いほどよいです。
A103	総トリハロメタン濃度水質基準比率	%	max(Xi)	↓	22.9	22.9	25.9	32.0	24.1	じや口での総トリハロメタン濃度の水質基準値に対する割合を示しています。 この値が低いほどよいです。
A104	有機物(TOC)濃度水質基準比率	%	max(Xi)	↓	20.8	19.2	19.0	18.5	17.4	じや口での有機物(TOC)濃度の水質基準値に対する割合を示しています。 この値は低いほどよいです。
A105	重金属濃度水質基準比率	%	max(Xhi)	↓	10.0 金属名 ヒ素及びその化合物	24.0 金属名 ヒ素及びその化合物	12.9 金属名 ヒ素及びその化合物	16.0 金属名 ヒ素及びその化合物	8.6 金属名 ヒ素及びその化合物	じや口での重金属濃度の水質基準値に対する割合を示しています。 この値は低いほどよいです。
A106	無機物質濃度水質基準比率	%	max(Xhi)	↓	21.0 無機物質名 カルシウム、マグネシウム等(硬度)	22.6 無機物質名 カルシウム、マグネシウム等(硬度)	23.5 無機物質名 カルシウム、マグネシウム等(硬度)	24.5 無機物質名 カルシウム、マグネシウム等(硬度)	24.2 無機物質名 カルシウム、マグネシウム等(硬度)	じや口での無機物質濃度の水質基準値に対する割合を示しています。 この値は低いほどよいです。
A107	有機化学物質濃度水質基準比率	%	max(Xhi)	↓	0.0 有機化学物質名 該当なし	0.0 有機化学物質名 該当なし	0.0 有機化学物質名 該当なし	0.0 有機化学物質名 該当なし	0.0 有機化学物質名 該当なし	じや口での有機化学物質濃度の水質基準値に対する割合を示しています。 この値は低いほどよいです。
A108	消毒副生成物濃度水質基準比率	%	max(Xhi)	↓	43.5 消毒副生成物名 トリクロロ酢酸	34.9 消毒副生成物名 トリクロロ酢酸	28.6 消毒副生成物名 トリクロロ酢酸	35.1 消毒副生成物名 トリクロロ酢酸	27.2 消毒副生成物名 トリクロロ酢酸	じや口での消毒副生成物濃度の水質基準値に対する割合を示しています。 この値は低いほどよいです。
A109	農薬濃度水質管理目標比	-	max Σ (Xij/GVj)	合計が1を超えないこと	0.000 測定項目数 110項目	0.000 測定項目数 81項目	0.000 測定項目数 81項目	0.000 測定項目数 81項目	0.000 測定項目数 81項目	じや口における各農薬濃度と水質管理目標値との比の合計を示しています。 この値は合計が1を超えてはいけません。

番号	業務指標名(単位)	単位	定義(積算方法)	望ましい方向	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	解説
A201	原水水質監視度	項目	原水水質監視項目数	—	37	36	36	35	35	原水(浄水処理する前の水)で月1回以上調査をしている項目数を示します。項目数は原水や河川の特質によるため、必ずしも項目数が多いことがよいわけではありません。
A202	給水栓水質検査(毎日)箇所密度	箇所/100km ²	[給水栓水質検査(毎日)採水箇所数/(現在給水面積/100)]	↑	7.6	7.6	7.6	7.6	7.3	給水面積100km ² 当りの給水栓水質の監視箇所数を示します。この値は給水区域の形態などにより異なります。
A203	配水池清掃実施率	%	[5年間に清掃した配水池有効容量 / 配水池有効容量] × 100	↑	14.2	20.9	21.0	30.1	28.9	配水池有効容量に対する5年間に清掃した配水池有効容量の割合を示します。配水池の清掃頻度は、施設構造や使用状況などによって異なります。
A204	直結給水率	%	(直結給水件数/給水件数) × 100	↑	96.4	96.5	96.5	96.5	96.5	貯水槽を経由せずに直接給水される割合を示しています。この値が高いほど、より多くのお客さまに良質な水道水が届けられることになりますが、病院、工場などでは、災害時対応の観点などから貯水槽水道が望まれる場合があります。
A205	貯水槽水道指導率	%	(貯水槽水道指導件数 / 貯水槽水道数) × 100	—	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	貯水槽水道総数に対する調査・指導の割合を示します。貯水槽は水道事業者の管理ではありませんが、衛生上の指導を行います。
A301	水源の水質事故件数	件	年間水源水質事故件数	↓	1	3	1	2	0	油、化学物質の流出などによる水質汚染の件数です。この指標は、水源の突発的水質異常のリスクがどれだけあるかを示します。直接的に水道事業体の努力では改善困難な指標ですが、事故への対応措置を充実させる努力が必要です。
A302	粉末活性炭処理比率	%	(粉末活性炭年間処理水量/年間淨水量) × 100	—	95.4	88.7	89.1	78.6	68.3	年間淨水処理量に対する粉末活性炭年間処理水量の割合を示します。粉末活性炭は主にカビ臭対策として使用されます。

(分類)施設整備

番号	業務指標名(単位)	単位	定義(積算方法)	望ましい方向	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	解説
A401	鉛製給水管率	%	(鉛製給水管使用件数/給水件数) × 100	↓	10.6	9.6	9.4	7.7	5.7	鉛製給水管を使用している件数の割合を示します。給水管はお客さまの私有財産ですが、水道事業体として鉛製給水管の解消に向けた取組努力が求められます。この値は低いほどよいです。